

ファンがつくる 金沢競馬をもっと楽しむ情報誌

# 遊馬 plus

協力: 金沢ホースマンクラブ  
協賛: 金沢競馬振興協議会  
発行者: 遊馬プラス編集部

## 無料

ご自由にお持ちください  
[www.kanazawakeiba.com](http://www.kanazawakeiba.com)

九月二十六日(火)

# 第四十二回 白山大賞典 (JpnIII)

Ask Me Anything

3人の女性厩務員に聞きました  
— 厩務員の仕事って、どう?

2023年9月

# 52

vol.

イヌワシ賞優勝馬 ラッキーDream (兵庫)

Photo by miwa

※ご意見、ご感想をお寄せください  
宛先 E-Mail: [yushun-plus@gmail.com](mailto:yushun-plus@gmail.com)  
<http://sites.google.com/site/yushunplus/>



### 白山への出走権は ラッキードリームに

#### イヌワシ賞

優勝馬には白山大賞典への優先出走権が与えられる重賞イヌワシ賞。

今年は八頭立てとフルゲートとはならなかったが、北海道三冠馬で園田移籍後重賞三勝と強さが戻ったラッキードリーム、そのラッキードリームを六甲杯で土を付かせた高知グリードパルフェ、大井の帝王的場騎手を背に復活を期すJDD馬ダノンアラオと、強力なメンバーが揃った。



ラッキードリームとウラノメトリア Photo by miwa

ゲートが開くと昨年の金沢スプリントカップ三着の大井メイショウワザシが逃げ、ラッキードリームがす

ぐ後ろからマーク。それをさらに昨年の北國王冠二着で金沢青柳騎手騎乗のウラノメトリアが追いかける。そこからさらにダノンアラオグリードパルフェが追走して地元期待のトランスナショナルも食らいついていく。

レースが一気に動いたのは二週目四コーナー手前。ここでメイショウワザシが捕まり、ラッキードリームが早めに先頭に立つ。

しかし、その内を拘うようにウラノメトリアが迫ってくる。金沢の短い直線で二頭の追い比べ。殆ど並んだまま直線を駆け抜けてゴール板を通過した。

首の上げ下げの差でラッキードリームが頭差で凌ぎ、重賞九勝目を決めて白山大賞典の優先出走権を得た。



ラッキードリームと下原理騎手 Photo by miwa

ラッキードリームは今年ダートグレードの佐賀記念(JpnⅢ)で地方馬最先着の六着。中央勢への逆襲の舞台は金沢となるか。

二着のウラノメトリア二度目の重賞二着。その二回は全て金沢とこの舞台はよく合いそう。

そして、地元期待のトランスナショナルはダノンアラオを捕らえるも五着となった。



### 白山大賞典 出走馬大予想 〜地元馬篇〜

イヌワシ賞終了時点の情勢を元に、地元馬は誰が白山大賞典に出てくるのかを予想してみたい。

この予想は毎年『白山大賞典号』を制作する際に頭を悩ませる元なのだが、今年は特に頭を悩ませている。

今年の金沢中距離戦線を見ると勝ち馬がハクサンアマゾネスだけと言うまさに一強状態。

そのハクサンアマゾネスは昨年の白山大賞典では十二頭中の十一着に沈み、今年はどうかな、と思っていたら九月五日の名古屋の秋桜賞に出走。ところが休み明けの影響が大敗した上に、間隔的な問題もあるので出走は厳しいか。

ならばアマゾネス以外では、となると利家盃二着、イヌワシ賞五着のトランスナショナルか。重賞は未勝

利だが中央時代にオープンまで出世したその脚はまだまだ健在。

「イヌワシ賞を勝てば白山」と陣営は言っていたがこの結果をどう見るのか。

九月二四日の佐賀の地方全国交流重賞の鳥栖大賞、

二五日の笠松の東海北陸近畿交流重賞のオータムカップも視野に入れているとも言うが、果たしてどの競馬場のパドックを歩いているのか。

他に目を向けると、百万石賞二着

のガムランも面白い存在。中央でのクラスは二勝クラス。しかし、中央の舞台では勝った事がなく勝ち星は全て金沢での物と言う金沢巧者。

中央で複勝圏内に入った時の距離は一七〇m〜一九〇mと中距離では合っている。健闘は期待できるかもしれない。

他にも、今年の百万石賞四着でまだまだ健在ぶりを見せた二〇二〇年百万石賞優勝馬、十歳の古豪スギノ



ガムラン



スギノグローアップ

グローアップ。利家盃四着、百万石賞三着と大舞台で人気薄でも上位に食い込んでくるサンレイファイト。金沢競馬移転五〇周年記念五掲示板を外した事が無いソーラーフレア。金沢競馬移転五〇周年記念五着。金沢で掲示板を外したの二回だけの安定勢ナリノヴィエヌ。古豪に安定勢と様々な面々が地元勢として控えている。

ただ、名前の拳がたつたはずれの間、ハクサンアマゾネスに重賞で大きく差をつけられているのも事実。ダートグレードの舞台ではまだハードルが高いか。

まだ見ぬ強者が現れるのか、あるいは三歳からの出走があるのか。当日の馬券予想よりも難しい地元馬の出走予想。頭を悩ませる必要のない、強力な地元馬の登場を切に願いたいものである。

# 白山大賞典 出走馬大予想 中央馬篇

イヌワシ賞終了時点で、中央の馬の中で白山大賞典に出走を予定しているとは報じられているのは。

## ▼ケイアイパープル (牡七歳)

昨年の優勝馬が史上三頭目の連覇を狙う。しかしながら昨年の優勝以来勝ちきれず、今年の名古屋大賞典二着が目立つ程度。しかし、その二着は復活の手応えを感じられる追い比べだった。初重賞制覇を決めたこの舞台で再スタートを切りたい所。



ケイアイパープル

## ▼カフジオクタゴン (牡四歳)

昨年の白山大賞典三着。シリウスSとの両腕みだが昨年のリベンジを果たしに来る。白山大賞典三着の後



カフジオクタゴン

圧巻の走りだった。帝王賞以来のレースだが秋冬の大舞台に向けてここで賞金を積み重ねる。

## ▼ベイシャエス (牡四歳)

昨年ユニコーンSと名古屋グランプリと重賞二勝するも今年に入って七着、五着、八着と掲示板がやつと。

は佐賀記念三着が目立ったところでケイアイパープル同様にトンネルの中。トンネルの出口を金沢で見つけない。

## ▼ハギノアレグリアス (牡六歳)

今年の名古屋大賞典優勝馬で帝王賞四着。重賞は帝王賞以外でパーフエクト連対と安定感は抜群。ケイアイパープルをアタマ差競り落としたレコード駆けした名古屋大賞典は



ハギノアレグリアス

しかし、優勝した名古屋グランプリは二一〇〇mと白山大賞典と同距離。いまいち調子に乗っていない現状だが金沢の二一〇〇m戦の舞台で復活となるか。見限るのはまた早い。

## ▼メイショウフンジン (牡五歳)

今年になってダートグレード三着二回といよいよ本格化の様相を呈してきた。直線が短く先手必勝の金沢で逃げ先行のしぶといその脚質は合うはず。重賞未勝利で古馬の中では軽い斤量。ここで一発あるか。

## ▼ウィルソンテソーロ (牡四歳)

出走予定の中央勢で今一番勢いがあると言えるのが彼。かきつばた記念、マーキュリーCとダートグレード二連勝中。敵は同じ中央勢が増える斤量か。そんな中での重賞三連勝となるか、出走してきたなら大注目。

この他にもゴライコウ(牡三歳)、テンカハル(牡五歳)、サンライズホープ(牡六歳)が出走を検討して

いるとの事。

実績馬から復権を狙う馬、次のステップへの挑戦馬と今年はこの舞台を狙う馬が多い。



今年の白山大賞典号はいつものとは趣を変えて、白山大賞典の記事よりも女性厩務員へのインタビュー記事に紙面を多く割いた。騎手や調教師のコメントを目にする事はあるが、厩務員の言葉に接する事はあまりないのではないだろうか。

昨今ではSNSで厩務員の発信に接する機会も増えているが、まだまだ少数派。厩務員の様子や思いが伝わる一端となれば幸いである。

そんな厩務員だが、どの厩舎も「足りていない」と言う声を聞く。パドックを見てみると老若男女、ここ最近では外国人の厩務員もパドックで馬を引いている。逆に言えば性別、年齢、国籍を問わずに活躍ができる職場と言える。

厩務員のなり手を確保する為に各厩舎がSNSでの発信や、勤務体制の改革など様々な工夫をしている。しかしながらそんなソフト面での工夫も限界がある。夢を抱かせるような収入(賞金)や勤務環境の改善と言った主催者側の改革も必要なのではないか。今年には金沢競馬場の移設五十年だ

中央勢が勝利を独占し続ける白山大賞典。誰がその流れに乗り、継いで行くのか。はたまた地元馬の反撃を受けてしまうのか、注目だ。

が、それ以来の厩舎は誰が見ても老朽化が著しい。最近になって、ようやく全面改装が始まったが、進捗は「完成する頃には自分は生きていないか」との冗談が調教師や厩務員から飛び交うような始末。ファンが集まるスタンドは、先の改装で快適になった。次はホースマン達の番。様々な制約はあるだろうが安全かつ快適に仕事ができる環境の整備を急いでほしい。

厩務員の不足は金沢だけではなく全国の問題で人材の奪い合いも全国規模となっている。金沢にはそんな他場に負けない環境の競馬場となつてほしい。

厩務員への興味を持つ人がやってきた時、働き続けられるような競馬場は自ずとレベルも上がっていくはず。ファンもホースマンも幸せになれる競馬場を目指してほしい。





### 3人の女性厩務員に聞きました — 厩務員の仕事って、どうや

パドックを見ていると、女性の厩務員が大きな馬を引いて周回する姿をよく見かけるようになってきた。

彼女達は日々どのように馬と接し、どのように仕事と向き合っているのか。三人の女性厩務員に聞いてみた。

「物心ついた時から乗馬をしていました」

幼い頃から馬との深い繋がりを持っているのが高橋俊之厩舎の喜多由紀子厩務員。その乗馬の腕前は国体の強化選手に選ばれた程。

そんな彼女が競馬の道に進んだのは高橋厩舎に所有馬を託している馬主からの誘いだった。

「競馬はわからないから、と断っていたけど馬を知る上で競馬の仕事に携わるのもいい経験かな」

と、思っこの世界に飛び込んだのが五年前。そこから朝から深夜までと言えそうな厩務員の仕事に加えて家庭では二児の母親とあって大変な日々を送るも、

「自分の担当馬が一着のゴール板を駆け抜ける時の感動は日々の苦勞を忘れるくらいの嬉しさがあるから、やりがいはあるよ」

と充実した笑みを見せながら言う。また、大変なだけあって収入は固定給+担当馬の賞金で、

「普通の会社員よりも稼げている」とのこと。

「一度(担当馬を)レースに出したら安全と言う保証はない。常に最後の一戦でと言う気持ちで悔いのないように出している」

そう語る眼差しは馬への愛情に満ちた物。喜多厩務員の愛情を受けた愛馬が今日も競馬場を走る。



喜多由紀子厩務員 (口取り式にて)

七年前に乗馬クラブでの接点から競馬の世界に入ってきて現在六頭の担当馬を抱えるのが中川雅之厩舎の田中奈緒子厩務員。  
「農業をやりたいくてそのジャンルで仕事を探していたら、ハローワークで競馬場があった」  
農業、畜産業からのアプローチで厩務員になった田中厩務員。厩務員になるとやはり仕事は、

「すっごく大変。体力を使うのはもちろん、想像以上に頭を使う仕事」

頭を使うとは。

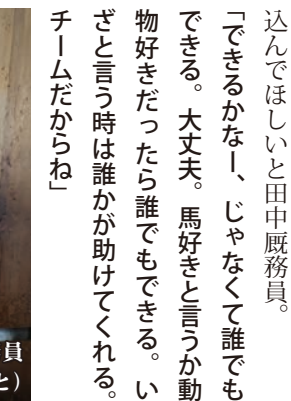
「流れ作業みたいな所もあるけど、一つ一つ全然違う事をしているので馬の事を考えたら難しい」

工場のライン作業で箱詰するような物ではなく相手は一頭一頭が個性を持った馬。

「馬ファースト。この馬に対して自分が何をすれば一番いいのかわかるほど、相当に頭を使う仕事である。」

厩務員になる前は体力に自信がある、と言っほどもなかったが、日々の仕事で鍛えられると言っ。馬との関わりがない人でもこの世界に飛び込んでほしいと田中厩務員。

「できるかなー、じゃなくて誰でもできる。大丈夫。馬好きと言っか動物好きだったら誰でもできる。いざと言っ時は誰かが助けてくれる。チームだからね」



田中奈緒子厩務員 (ゴールドスピダーと)

同じ厩務員のご主人や厩舎の仲間と共に支え合い、レースに出走する嬉しさを分かち合っていく。

自身が担当する馬の初勝利が松戸騎手の四〇〇勝と重なったと言っ、宗綱泰彦厩舎のラッキーガールは窪谷史紗厩務員。

「実は結構狙っっていた」  
二年目二〇歳、若き溢れる笑顔で言っ。

元々動物好きで高校時代に馬術部に所属。部活の先輩に誘われて厩務員になったが、それまで競馬場には一度も来たことはなかった。

そんな一から始まった厩務員生活には、

「夏は夏バテするから大変だけど、慣れれば」

すっかり厩務員生活に馴染んでいく様子。

「つらい事もちよくちよくあるけど全てが楽しい。レースで勝っつてみんなにおめでとうと言われるのが嬉しい。めっちゃ楽しくやってるよ」

仕事の話振ると大変よりも楽しいが多く口から出っくる。

「仕事も部活をしているような感じかな」  
青春がまだまだ続いているように見える。

そんな窪谷厩務員、休日は愛車ジムニーに乗っつてのドライブだ。

「車自体が好きで気が向いたら遠出っしている」

冬季期間は雪道でも突き進んでいくとか。仕事もプライベートも充実しきっているように見える。

「大変やけど馬が好きならできるよ、大丈夫。つらい事もあるけど勝っつて楽しいから頑張っつてやってるよ」

厩務員になろうか考えている人にそう声をかけたいと言っ。

引退馬を引き取っつて牧場をする事が夢と言っ。現役馬の勝利と夢の為に笑顔と元気一杯に担当馬を送り出っしていく。



窪谷史紗厩務員 (愛車はジムニー)

世代も経歴も様々な厩務員だが、担当馬一頭一頭への想いの強さは同じ。担当馬が勝利を挙げた時はもちろん、無事にレースに出走っつて厩舎に帰っつてきただけでも嬉しいと言っ。普通の会社員では味わう事ができないような嬉しさを味わえる世界。馬や動物が好きならば、その世界へ続く門はいつでも開っつている。